



キリンビール滋賀工場・キリンビバレッジ滋賀工場において、 1秒あたり約5万点の生産データを分析するIoT基盤の試験運用開始 ～工場内の生産データを活用し、製造体制の効率化・自動化に向けた業務改善・高度化に着手～

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典、以下キリン）と、キリンビール株式会社（社長 布施孝之、以下キリンビール）、キリンビバレッジ株式会社（社長 堀口英樹、以下キリンビバレッジ）、株式会社 NTT データ（社長 本間洋、以下 NTT データ）は、キリンビール滋賀工場（工場長 玉置貴一）、キリンビバレッジ滋賀工場（工場長 後藤一義）において、1秒あたり約5万点におよぶ商品の製造に関わる生産データを蓄積・分析するIoT基盤を開発し、11月より試験運用を開始しました。

当IoT基盤では、NTTデータが開発した、企業間・拠点間の情報活用基盤である「iQuattro[®]※1」を活用しています。これまでは、製造状況をそれぞれの生産設備ごとに確認していましたが、当IoT基盤の導入によって、製造設備やセンサーなどのデータを大量に蓄積し、iQuattroとその他アプリケーションを連携させることで統合的な可視化が可能となります。これによって、製造現場の様子を工場内外からリアルタイムで確認できるようになり、業務のリモート化・効率化が可能になるほか、各商品にあった製造計画の立案がより効率的に行えるようになります。今回のIoT基盤の試験運用を通して、工場における製造体制の効率化・自動化を推進していくことで創出された時間で、さらなる品質向上に取り組み、高い品質管理レベルの製造体制を維持します。

※1 NTTデータが提供する「データとデジタル技術を組合せた新たなビジネスモデル創出」を実現するクラウドプラットフォーム

■ IoT基盤導入について

<導入の背景>

・製造業では、働き方の変革、熟練技能者からの技術継承、産業用ロボットや業務作業の自動化などによる省力化の推進、品質維持のための適正な管理などが課題であり、これらの課題解決のためデジタル化の推進が始まっています。

・キリングループでもこの課題に対する取り組みを推進し、NTTデータと協働して、AIを活用した過計画業務やRPA^{※2}による業務の自動化、多様化する消費者のニーズに合ったマーケティングを実施するための、デジタル・エクスペリエンス・プラットフォーム³（DXP）などによるキリングループの「デジタル変革」を行ってきました。

※2 Robotic Process Automationの略。人間がコンピューター上でやっている定型作業を、ロボットで自動化すること

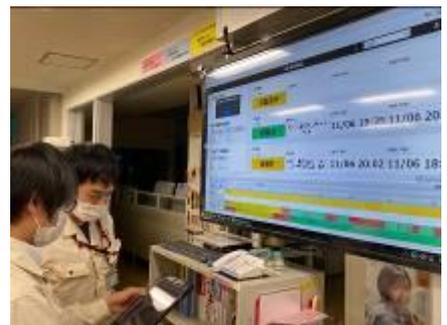
※3 キリングループの顧客データ等を蓄積・活用し、デジタルマーケティングを行う共通的なプラットフォーム

<概要>

・今回導入したIoT基盤は、工場内のさまざまな生産データ、センシングデータ、映像などのデータを統合して扱うことができ、製造現場におけるデータ収集、データ連携・蓄積、データ加工・分析、可視化を実現します。本基盤には、蓄積されたデータ分析・予測できる機能などを持った、企業間・拠点間の情報活用基盤「iQuattro[®]」を使用しています。

・キリンビール滋賀工場、キリンビバレッジ滋賀工場では、当IoT基盤の試験運用を11月より開始しました。あわせて、一部手書きで運用していた現場の管理書類を、タブレットを利用してその場でデータ入力し、電子保存するように作業工程の見直しを行っています。

・IoT基盤の試験導入により、それぞれの生産設備ごとに確認していた製造状況を工場内外からリアルタイムで統合的に確認できるようになり、工場内の移動時間削減や、「改善実行」などの意思決定をリモートで実施できるようになります。またデータ活用が容易になるため、分析や課題解決に向けた検討などの管理業務効率化も推進していきます。



試験運用の後、IoT基盤のさらなる活用に向けて、各工場における製造体制の自動化推進に向けて必要な判断の数値化、作業時間の短縮、品質向上に向けたデータ活用などを進め、キリンビール、キリンビバレッジ全工場への本格展開を目指します。同時に基幹システムやAIによる計画業務などのシステム連携や機能拡充を進め、将来的には自社工場のみだけでなく、企業間で連携した工場業務の自動化・高度化を推進し、効率の良い、人に優しい工場の実現を目指します。

キリングループは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよここびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します。

※添付資料：システムイメージ…1枚

添付資料：システムイメージ

